Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-09-27

第10章 地域連携研究

木村, 修二
河野, 未央
添田, 仁
坂江, 渉

(Citation)
歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業,8(平成21年度事業報告書):48-50

(Issue Date)
2010-03-31

(Resource Type)
report part

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81002067

り、電子図書館係と協議を続けている。

次年度も図書館独自予算による「地域資料調査事業」は継続されるが、予算規模の関係でアルバイトの日数を減らさざるを得ない見込みであるが、まがりなりにも継続されることは本事業にとっては大きい。ただ大学当局には、本事業の意義をより積極的に認められ、予算措置の安定化を求めたい。大学所蔵資料の公開へむけ努力することは、地域的にも社会的にも大学に課せられた重要な責務であると認識すべきことがらであると文責者は考えている。

また、電子図書館係からは、以上の事業とは別に、現在同係が進めている同館所蔵住田文庫の電子化事業についての協力が要請され、電子画像化すべきテキストのセレクトを当センターとして行うなどの協力を行った。

（文責・木村修二）

第10章　地域連携研究

年報『LINK』の発行

2009 年 8 月 31 日付で年報『LINK【地域・大学・文化】』創刊号を発行することができた。掲載内容は以下の通りである。

【創刊特集】大学は地域の歴史文化にどうかかわるのか／藪田貫「大学と地域連携―関西大学なにわ・大阪文化遺産センターの取組みを通して―」／伊藤昭弘「佐賀大学地域学歴史文化研究センターの活動と地域」／藤田裕嗣「教員養成 GP のその後―高大連携に基づく「地歴科教育論」の開講―」／辻川敦「尼崎市立地域研究史料館にとっての地域連携」／奥村弘「地域歴史文化における大学の役割―神戸大学と小野市の連携を中心に―」

【論考】木村修二「近世における大規模河川井堰の構造と変容―但馬国出石郡口矢根村・出石川大井堰をめぐって―」／森田竜雄「神戸市北区山田町藍那地区における昭和三〇年代の生業記録―稲作を中心に―」／

【フィールドリポート】岸本道昭「いひほ学研究会―地域の歴史文化遺産を活かした未来への助走―」／印藤昭一「「羽束の回廊歴史フォーラム」の活動と大学の地域連携活動についての私見」／高野尚子「民と民をつなぐ震災資料―人と防災未来センター所蔵資料の事例から―」／

【時評・書評】市沢哲「「LINK」に寄せて」／森岡秀人「坂江渉編著『風土記からみる古代の播磨』」／

【報告】人文学研究科地域連携センター活動紹介

現在第 2 号発行（8 月 31 日発行予定）へむけて鋭意編集活動を行っているが、第 2 号の特集テーマは「"地域の再生"と歴史文化」に決定している。昨年度地域連携協議会にご講演いただいた岡田知弘氏（京都大学経済学部教授）による論文のほか数編のご寄稿を予定している。また、2009 年 8 月に日本列島へ上陸した台風 9 号による被災史料対応に関する小特集を組む予定である。

（文責・木村修二）

神戸大学近世地域史研究会

市民の方々のほか、学生・院生、神戸大学 OG などとともに月 1 回の定例会をもち、たつの城下町人の風聞記である「覩聞記」の読み合わせと翻刻、さらには研究報告も寄せられた。2010 年 2 月の例会ではたつの市にて開催された「たつの市町史第一次完成記念シンポジウム『たつの地域の特性〈地形・気候・文化〉から歴史をさぐる』」に参加した。（文責・河野未央）

神戸居留地研究会10周年記念事業「高校生・大学生による神戸・阪神間地域学発表会」への参加

10 月 31 日、神戸女子大学教育センターにおいて神戸居留地研究会主催「高校生・大学生による神戸・阪神間地域学発表会」が開催された。これは、神戸・阪神間の高校生や大学生が、自身の研究を発表することで、お互いの刺激となり研究がより発展することを目指して企画されたものである。神戸大学からは、澤井廣次（M2）が「大坂地域における民衆運動と第 2 次幕長戦争～慶應 2 年大坂騒擾を題材に～」と題した発表を行った。

（文責：添田仁）

平成19～21年度 科学研究費補助金・基盤研究(C)「播磨国風土記を通してみる古代地域社会の復元的研究」（研究代表・坂江渉）

平成 19 年度以来、本センターを拠点的な研究施設としておこなわれてきた本研究も、最終年度を迎えた。3 年間を通じて、以下のような研究成果があがった。

①『播磨国風土記』所載の地名の新しい現地比定と景観復元　3 年の期間中、主に播磨国でもっとも「大郡」である揖保郡の各条を現地調査をおこない、それにより従来の通説的理解（日本古典文学大系『風土記』、新編日本古典文学全集『風土記』など）と異なる新知見を獲得できた。これについては、それぞれの比定地の現地調査を、科研チーム単独ではなく、地元市町の文化財担当職員や地域史研究家の協力のもと実施できたことが大きい。

②国文学的研究の成果の吸収と課題の明確化　伝本が三条西家本のみである『播磨国風土記』においては、「諸註釈書が本文の難解箇所をどのように校訂してきたかを『校訂』することが重要」という国文学研究者の指摘を受けとめ、校訂をめぐる問題整理をおこない、『播磨国風土記』特有の問題点を明らかにできた。それとともに現地フィールドワークの成果、地域社会の構造を重層性・階層性等を重んじた研究視角で分析することにより、難解な底本部分の史料解明にもかなり接近できることが明らかになった。

③地名起源説話にもとづく古代播磨政治史へのアプローチ　研究を通じて、『播磨国風土記』の地名起源説話に断片的にみえる氏族伝承が、大化前代の古代播磨の政治構造や王権による播磨の政治的編成をあり方、あるいは他地域との交流内容を解明する素材となり得ることが明らかになった。

④地名起源説話に引用される神話・伝承にもとづく民間儀礼や祭祀分析への接近　風土記の地名説話に部分的神話等は、単なる机上の製作物ではなく、一定の「実践」（儀式・祭祀）との関わりをもつという認識のもと、古代の播磨の地域社会における共同祭祀や族長層による支配儀礼の分析をすすめた。それにより近年停滞的であった古代村落論や共同体研究の中身をある程度豊かにすることができた。

⑤地域連携の成果にもとづく新しい文字資料の「発見」　科研チームが連携する地元自治体職員からの情報提供より、山口県小郡文化資料館蔵の「刻書石」ついて調査研究をすすめ、その結果、同石が『播磨国風土記』に載せられる地名を含む古代の文字資料であることを解明できた。

それぞれの研究成果については、各学会、各学会誌等で発表する予定であるとともに、別途刊行する成果報告書において公表する予定である。

（文責・坂江渉）

平成21年度科学研究費補助金・基盤研究(C)「前近代日本における歴史的景観形成についての災害文化論的アプローチ」研究代表・木村修二）

当年度より「前近代日本における歴史的景観形成についての災害文化論的アプローチ」というテーマが採択された。研究期間は 5 年間である。

本研究の全体構想は、前近代の日本社会における歴史的景観・地域秩序の形成に、水害や旱害などのような自然災害が与えた影響を通時代的に検討することにある。その際、以下の点を具体的な目的として研究を進める。①水害や旱害といった災害の影響が、地域の歴史的景観・秩序形成を独特なものたらしめるという視点を「災害文化論的アプローチ」とよび、その理論的な方法論の確立をめざす。②具体的な素材として、近代の工業化以前の日本社会における基盤的産業であり、なおかつ自然災害の影響を否が応でも蒙らざるをえなかった水田農業を取り上げ、それが地域の景観・秩序形成にきわめて大きく関わっているという認識のもと、その支柱ともいえる灌漑用水の地域的利用に特に注目することで、景観形成に深く関わる地域秩序の形成にいかなる影響を与えたのかを明らかにすることが課題である。

本年度は、主として研究の準備期間に充てた。フィールドワークが主体となる研究なので、調査が予定される兵庫県を中心とする近隣他府県への事前調査を行い、必要な物品および図書の購入を行った。

当年度の出張調査は以下の通りである。

□ 2009 年 8 月 18 ～ 21 日：兵庫県豊岡市但東町矢根大石家文書調査／ 2009 年 9 月 20 ～ 1 日：岡山県吉井川・旭川・高梁川流域水利調査／ 2009 年 12 月 15 日：奈良盆地ため池・用水路調査／ 2009 年 12 月 26 日：兵庫県小野市域水利調査／ 2010 年 2 月 9 ～ 11 日：兵庫県但馬・播磨地方水利調査／ 2010 年 2 月 17 ～ 8 日：兵庫県篠山市・丹波市水利調査／

また、2009 年 12 月 29 ～ 30 日には、本科研への協力者を交えた第 1 回目の研究会を開催（於神戸大学）し、木村は「合石論」と題した報告を行った。（文責・木村修二）

第11章　その他の諸活動

「播磨国風土記の世界」の講演会

兵庫県芸術文化協会主催の平成 21 年度考古学教室の連続 10 回講座がひらかれ、2009 年 4 月 17 日の第 1 回目の講座で、センター研究員の坂江渉が、「播磨国風土記の世界」と題する講演をおこなった。場所は兵庫県民会館。参加者は約 200 人。（文責・坂江渉）

香寺歴史研究会主催の歴史講演会

2009 年 5 月 15 日、センター担当教員の古市晃が、姫路市香寺町香呂公民館において、「古代の香寺と倭王権」と題して講演を行った。主催は香寺歴史研究会。（文責・古市晃）

園田学園女子大学生涯学習センターでの講義

園田学園女子大学生涯学習センターが開講している社会人を対象とした講座であるシニア専修コース（3 年制）文学歴史学科でのカリキュラム「日本史学Ⅲ―土地に刻まれた歴史―」において、平成 20 年 10 月 13 日と同月 20 日の 2 回にわたり、木村が招かれ講師を勤めた。テーマはそれぞれ「水と人とのかかわり―「合石」をめぐる水利慣行―」（10/13）、「描かれた村の景観―村絵図を読み解く―」（10/20）とした。受講者は両回とも約 20 名だった。（文責・木村修二）

小野市立好古館地域展の関連講演会

小野市立好古館の平成 21 年度秋季特別展「大地に刻まれた歴史 -来住地区の古代・中世-」の関連行事である講演会が、2009 年 11 月 7 日（土）、小野市コミュニティセンターきすみで開かれた。センター担当教員の古市晃が、「古代の賀茂郡ときすみの」と題して講演を行った。主催は小野市立好古館。（文責・古市晃）

神戸大学厳夜祭への協力

当センターは、11 月 14 日から 15 日にかけて本学国際文化学部キャンパスにおいて開催された第 36 回厳夜祭へ当センターの活動の概要を記したパネルを展示した。これは昨年度に引き続くもので、同実行委員会が企画した「学生・地域交流企画」の趣旨に賛同したものである。

（文責・木村修二）

地域連携活動発表会パネル・ディスカッション

2010 年 1 月 18 日、瀧川記念学術交流会館大会議室で、平成 21 年度地域連携活動発表会が開催された。この発表会は、本学の地域連携事業の活動状況を報告するとともに、様々な関係者からの意見を参考にしながら翌年度の活動に活かすことを目的に、平成 17 年度から毎年開催されている。当センターからは松下が代表で報告をおこなった。発言内容の詳細は地域連携推進室から発行される報告書に委ねることとして、ここでは概要のみを報告する。

第一部では地域連携活動発表として、神戸大学東京オフィスの協力を得て地域連携推進室が東京で開催した「青野原俘虜収容所展 in Tokyo 2009」について、 人文学研究科の大津留厚教授と神戸大学東京オフィスの植村達男コーディネーターが報告した。

続いて、人間発達環境学研究科の事業から、サイエンスショップなどの活動を通じた地域社会における市民科学活動への支援事業に関する報告があった。さらに、地域連携推進室の学内公募事業「地域連携事業」3 件と、昨年度から実施している学生の地域貢献活動を対象にした公募事業「学生地域アクションプラン」2 件について、それぞれの代表者が報告をおこなった。

第二部では、「神戸大学の地域連携事業の広がり」をテーマにパネルディスカッションを行い、人文学研究科、国際文化学研究科、農学研究科及び経済経営研究所の地域連携に携わるパネリスト